

子どもたち
生きていく
力をつける
それ
金融教育です



皆さんの取り組み、教え方、ご提案。さまざまな声をお聞かせください。

第8回

締切
9/30
※消印有効

金融教育を考える 小論文コンクール

特賞 1編 (賞状と賞金30万円)

優秀賞 2編 (賞状と賞金10万円)

奨励賞 5編 (賞状と賞金3万円)

応募資格 | 幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教師、教職課程在籍・教職を目指す大学生、大学院生、大学教員等研究者

金融教育を考える 小論文コンクール

小論文コンクール開催にあたって…

子どもたちに、生きていく力をつける。それが、金融教育です。

皆さんの取り組み、教え方、ご提案。

さまざまな声をお聞かせください。



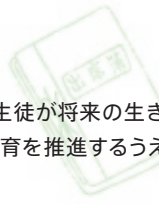
近年の金融をはじめとする様々な分野における規制緩和等により、私たちが利用できる金融商品やサービスが多様化するなど、暮らしを取り巻く金融環境は大きく変化しています。こうした中、消費者一人ひとりが、より豊かな暮らしを手にするためには、環境変化を読み取りながら、自らが「自己責任」を持って主体的に判断し、適切に選択して行動することが必要になっており、金融や経済に対する基本的な知識をしっかりと身に付けておくことがますます大切になってきています。

金融教育を通じて健全な社会人が育ち、そうした人たちによって“活力のある社会”が築かれることを願っています。

多くの方からの幅広いご応募をお待ちしています！

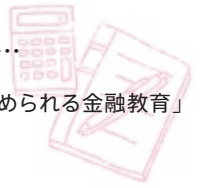
例えば教諭・教師なら…

体験的な学習や話し合い、ゲーム等を通じて児童・生徒が将来の生き方を考える契機となっていた等の実践例や、金融教育を推進するうえでの提言。



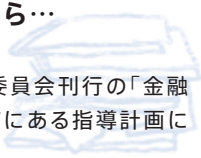
例えば教職課程に在籍する、
または教職を目指している大学生なら…

「将来、取り組んでみたい金融教育」や「これから求められる金融教育」等についての意欲的な提言。



例えば大学院生・大学教員等研究者なら…

「これからの時代に求められる金融教育」や当委員会刊行の「金融教育プログラム」や「金融教育ガイドブック」などにある指導計画に関する提言。



例えばゲストティーチャーなら…

学校で実際に行った実践報告を踏まえた提言。教育関係者と共同で執筆のうえ、ご応募ください。



金融広報中央委員会の考える金融教育とは…

「生きる力」を育む金融教育
金融教育の目標と
4つの分野

1

生活設計・家計管理

生活設計、貯蓄と運用、資金管理など

2

経済や金融のしくみ

お金のはたらき、経済把握、経済政策、経済社会の諸課題など

3

消費生活・金融トラブル防止

金銭感覚、金融トラブル、自立した消費者など

4

キャリア教育

働く意義、生きる意欲、社会への感謝・貢献など

金融広報中央委員会では、毎年、
金融教育の普及のため各地でさまざまなイベントを開催しております。
金融教育を知るきっかけとして、こちらにもぜひ一度足をお運びください。

平成23年度中随時開催 都道府県金融広報委員会の教員向けイベント

全国の各都道府県金融広報委員会が開催する学校教員向けのイベントです。

平成23年 10月～24年 1月 金融教育フェスティバル

教員の方向けのセミナーや、暮らしに役立つ講演会と親子でお金について学ぶことができる体験型イベントを全国3か所で開催します。

平成23年 9月～24年 2月 金融教育公開授業(全国リレー講座)

全国各地の幼稚園、小学校・中学校・高等学校で実施される公開授業をリレー開催。
金融教育に関する授業を実際に紹介します。



金融教育フェスティバル(教員向けセミナー)



金融教育フェスティバル(親子で学ぶイベント)



金融教育公開授業(全国リレー講座)

詳しくは...

ホームページ www.shiruporuto.jp までアクセス!

金融広報中央委員会とは?

「金融広報中央委員会」(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、健全で合理的な家計運営のために、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場からの正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と一人ひとりが賢い消費者として自立するための「金融経済学習の支援」を積極的に展開しています。

ご存知ですか? 学校にお届けしています。

はじめての金融教育

金融教育に初めて取り組もうと思われる先生向けの冊子。入門ガイドには実践ワークシート集がついているほか、実践事例を収録しています。



金融教育プログラム

—社会の中で生きる力を育む授業とは—

学校における金融教育をより効果的に進めるためのプログラム。金融教育の意味と必要性を解説しているほか、学校段階別に指導計画を収録しています。



金融教育ガイドブック

～学校における実践事例集～

幼稚園から高等学校までの金融教育の実践事例を紹介した冊子。体験に基づく実践的な学習、話し合い、ゲームなどを中心として45の指導事例が収録されています。



見てわかる! 金融教育

—授業の進め方—

小学校・中学校・高等学校における金融教育の実践事例を映像で紹介している解説DVD。「金融教育とは」、「研究校とは」との疑問にも答えています。

※本DVDは貸出サービスを行っています。ご希望の方はお近くの都道府県金融広報委員会、日本銀行支店・事務所にお申し込みください(無料)。



都道府県金融広報委員会一覧

URL <http://www.shiruporuto.jp/about/link/pref/index.html>

第7回 特賞・優秀賞受賞作品発表

(2010)



マネー・コンピテンシーの育成を目指した単元開発 —「コミュニケーション・メディア」としての貨幣から“つながり”をみつめる活動を通して—

谷本 千保さん(大阪府 豊中市立刀根山小学校)

小学校における新しい金融教育の単元を構想した論文。

筆者は、子どもによる犯罪事件の報道や学校教育現場における生徒の問題行動から、お金が絡む事例が増えているのではと指摘し、人と人のつながりを構築、維持していくための手段としてお金を捉え直す必要があると提唱した。本研究では、お金を、「わたし」と、他者や社会を結び付ける「コミュニケーション・メディア(媒介物)」と捉え、お金とかかわるための総合的な力を、「マネー・コンピテンシー」と定義。保護者や地域、外部機関との連携などによる相互交流を基盤にした学習活動を通じた高学年用の10時間の授業計画をまとめている。

実践には至っていないが体系的かつ論理的にまとめられていると、高く評価された。



金融教育ができる教員を養成しよう —北海道教育大学と北洋銀行のチャレンジ—

北海道教育大学・北洋銀行金融教育プロジェクト

研究統括 鎌田 浩子さん(北海道 北海道教育大学教育学部教授)

川邊 淳子さん(北海道 北海道教育大学教育学部准教授)・濱地 秀行さん(北海道 北海道教育大学教育学部講師)

小林 あいさん(北海道 (株)北海道二十一世紀総合研究所調査部研究員)・秋山 玲奈さん(北海道 北海道登別明日中等教育学校)

太田 和幸さん(北海道 札幌市立山鼻中学校)・大西 康史さん(北海道 釧路市立幣舞中学校)

世戸 聡子さん(北海道 北海道教育大学附属旭川中学校)・野口 泰秀さん(北海道 標茶町立虹別小学校)

北海道教育大学と北洋銀行との共同研究で、同大学の教養科目のなかに「金融教育」の講座を開設し、平成22年度に全15回の授業を行った実践報告。授業は、道内3カ所のキャンパスをテレビ会議システムでつないで実施し、1年生を中心に56名の学生が受講した。

内容は貨幣と金融に関する基礎知識に関するものから、社会人としてのマネーモラル・銀行の役割と社会的責任、小・中学校の社会科、生活科、家庭科における具体的な金融教育の授業方法など多岐に亘る。「金融について学びつつ、金融教育の実際に触れることができた」と受講した学生の反応も良好であった。今後は専門科目としても開講できるよう準備を進めたいとする。

学校における金融教育の担い手育成の好事例として、高評価を得た。



仮想取引体験授業の有効性と問題点 —行動経済学的な視点から—

川西 諭さん(東京都 上智大学経済学部教授)

大学における金融教育の実践報告。従来のファイナンス教育は、学生にとって身近でなく、金融市場の理論的な説明に終始してきたことが問題だ、と指摘した上で、金融取引の体験がない学生にそのしくみと難しさを伝える手立てとして、仮想取引体験を取り入れた授業を紹介している。

ゲーム感覚で金融の知識を学ばせる試みは、学生の積極的な授業参加を促し、金融知識の習得だけでなく、実際の取引で犯しがちな過ちや誤った認識に気づかせるうえで有効である、と述べている。一方で、授業目的を達成できるような適切な体験教材の作成には時間と労力が必要であることや、仮想体験から学生が間違った教訓を学んでしまわないように注意しなければならないなどの課題があることも指摘している。

オリジナル教材により行われており、教材の利点だけでなく問題点も分析している点が高く評価された。

第7回審査員(敬称略)

阿部信太郎(城西国際大学准教授) 宇都宮健児(弁護士) 工藤文三(国立教育政策研究所初等中等教育研究部長)

西村隆男(横浜国立大学教授) 牧野カツコ(お茶の水女子大学名誉教授) 行成卓巳(NHK制作局第2制作センター経済・社会情報番組部長)

須田美矢子(日本銀行政策委員会審議委員) 小林信介(金融広報中央委員会会長)

2011年テーマ

1 金融教育に関する授業や学校行事での実践報告

幼稚園や小学校、中学校、高等学校等の先生方が実践されたお金や金融・経済に関係のある授業や学校行事についてご報告ください。クラスや学年単位、あるいは学校全体での取り組みやPTA・地域と連携した事例などいろいろな実践があると思います。実践された授業や行事に対する児童・生徒の反応や感想のほか、当初の指導計画、実践して修正を要した点やさらに今後改善すべき点などをまとめてください。

2 これから取り組んでみたい金融教育

新学習指導要領では、価格や費用、市場における価格の決め方や資源配分、資金の流れや金融の働き、生涯を見通した経済の管理や計画等が盛り込まれるなど、金融経済教育の拡充が図られました。この機会に金融教育に取り組もうとお考えの先生方や、将来教職を目指す大学生から、児童・生徒にどのようにお金や金融・経済について教えてみたいと考えているかお聞かせいただきたいと思います。金融教育は社会科、家庭科に限らず幅広い教科で取り組めますので、意欲的な提言を期待しています。

3 これからの時代に求められる金融教育

多重債務問題・消費者トラブルの防止・職業選択等、若者が社会で自立していくためには金融教育が必要とされています。海外でも盛んに金融教育が実施されており、わが国の金融・資本市場の競争力強化のためにも金融教育の充実が望ましいとの指摘もあります。新学習指導要領では金融経済教育の充実が図られ、教育に携わる方の意識やスキル向上が課題となっています。これからの時代に求められる金融教育のあり方について具体的な提言をお願いします。

4 金融教育をさらに普及していくための提言

当委員会では、学校で金融教育に取り組んでいただくために「はじめての金融教育」、「金融教育プログラム」をはじめ、各種の副教材を作成し、全国の学校にお届けしています。また、民間金融機関やNPOなど多くの機関も、様々なかたちで金融教育支援策を提供しています。こうした支援策等を利用される教育関係者からみて、今後金融教育をさらに普及していくためには、何が必要なのか意見をお聞かせください。

5 その他

上記のテーマに限らず、お金や金融・経済に関係のある教育について、教育に携わる立場から、幅広くご意見をお寄せください。子どもをとりまく環境や現状を分析した報告などもお待ちしております。

募集要項

[応募資格] 幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校教師、教職課程在籍・教職を目指す大学生、大学院生、大学教員等研究者

[賞] ●特賞 1編(賞状と賞金30万円) ●優秀賞 2編(賞状と賞金10万円) ●奨励賞 5編(賞状と賞金3万円)

[締め切り] 平成23年9月30日(金)※消印有効

[発表] 12月下旬、金融広報中央委員会HP (www.shiruporuto.jp)などで発表。

[表彰式] 日本銀行本店にて開催。

[送付先] 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス3F 金融広報中央委員会コンクール事務局
「金融教育を考える」第8回小論文コンクール係

[問い合わせ先] 金融広報中央委員会コンクール事務局 TEL. 03-6826-8779(土・日・祝日を除く10時~17時)
同 ホームページ www.shiruporuto.jp



小論文を書くにあたって

●作品作成上の注意

文字量	途中の空白マス・空白行を含む 2,000~8,000字 ※文末に文字数を明記してください。 ※パソコン出力可。 ※字数が不足、超過している作品は審査対象となりませんので、ご注意ください。		
形式	横書きを基本としてください。パソコン出力の方は、可能な限り、文書データを添付してください。		
表紙	1枚目は表紙とし、選択テーマの番号、作品タイトル、勤務先、(共同執筆の場合は代表者の)氏名、300字以内で作品要旨を記入してください。		
資料 (指導計画書、 図表、写真等)	文末に添付してください。写真等は 15点以内 に収めてください。 添付資料についても 出所をもれなく明記してください。	分量	A4用紙の場合 6枚以内 A3用紙の場合 3枚以内
引用	明記方法	本文の引用箇所末尾に(※)を付し、その 出所を文末、又は章、節の末尾に記載してください。 引用が複数ある場合は(※1)(※2)のように番号を振ってください。 ※著書、雑誌、新聞、研究発表等からの引用は、必ず出所を明記してください。	
	明記するもの	著者、書名、引用ページ、出版社、出版年、新聞名、日付、ホームページ名、アドレス等	
その他	過去の入賞者自身あるいは入賞者の在籍校からの応募作品については、過去の入賞作品との差異や改善・発展度合いに着目して審査いたします。また、応募作品が実践報告の場合には指導計画書が添付されていることが望ましいと考えます。		

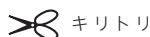
●応募上の注意

本リーフレット外面にある応募用紙、またはホームページ(www.shiruporuto.jp)からダウンロードした応募用紙に以下の項目を記入し、**応募作品の表に添付してください。**

 個人執筆の場合	選択テーマの番号、作品タイトル、氏名(ふりがな)、勤務先(所属先)名(ふりがな)、年齢、性別、勤務先・自宅の住所・電話番号・メールアドレス(パソコンまたは携帯)を記入
 共同執筆の場合	<ul style="list-style-type: none"> 団体名・プロジェクト名がある場合は、必ずご記入ください。 選択テーマの番号、作品タイトル、(代表者の)氏名(ふりがな)、勤務先(所属先)名(ふりがな)、年齢、性別、勤務先・自宅の住所・電話番号・メールアドレス(パソコンまたは携帯)、執筆者の人数を記入 応募用紙とは別の用紙に、共同執筆者全員の氏名、勤務先(所属先)名(ふりがな)、勤務先・自宅の住所・電話番号を明記して、応募作品に添付してください。 ※共同執筆者の過半が応募資格を満たしていなければならないものとします。

※作品は未発表で日本語に限ります。 ※作品は理由を問わず返却いたしません。 ※入賞作品の著作権・版権は主催者に帰属します。 ※規定外の作品は審査対象から除外します。
※応募用紙はコピー可能です。 ※奨励賞の作品は公表いたしません。 ※応募の際は下記個人情報の取扱いについてご確認いただいた上でご応募ください。

個人情報の取扱いについて	●応募者の個人情報は、入賞作品の選考、入賞者への連絡のためにのみ使用し、主催者ならびに当コンクール業務受託先が責任をもって管理いたします。●応募者本人の許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。ただし、法律や法的拘束力のある命令等に基づいて開示が要求された場合については、その要求に応じることがあります。●入賞者の氏名・勤務先(所属先)及び作品の一部は金融広報中央委員会ホームページ等にて公表させていただきますので、予めご了承ください。
--------------	---



「金融教育を考える」第8回小論文コンクール 応募用紙

※応募者の個人情報は当コンクール以外の用途には使用いたしません。

選択テーマの番号	作品タイトル	ふりがな 勤務先(所属先)名	
ふりがな お名前	※共同執筆の場合は、代表者のお名前のみご記入ください。	年齢	※共同執筆の場合のみ記入
勤務先(所属先)住所 (〒 -) 都道 市区 府県 郡		歳	代表者含む計 名で執筆
ご連絡先 ()	自宅住所 (〒 -) 都道 市区 府県 郡	※マンション・アパート名等も必ずご記入ください。	
自宅電話番号 ()	メールアドレス パソコン・携帯 (○で囲んでください)	※今後コンクール事務局よりご連絡することがございます。	

お手数ですが右記のアンケートにご協力をお願いします。

●このコンクールはどちらで知りましたか? 番号を○で囲んでください。(複数回答可)

1.ポスター 2.チラシ 3.新聞や雑誌 4.ホームページ 5.知人から 6.学校 7.その他()

※応募に際し下記内容に相違がなければ必ず に を入れてください。

この作品は当コンクールのために私が新たに執筆した未発表のものです。